

川根本町 図書室だより

8月

2022年8月号

- ・文化会館図書室(小長井)
 - ・山村開発センター図書室(上長尾)
 - ・移動図書館車やまびこ号:川根本町内7コース
- TEL:0547-59-3106(文化会館)
TEL:0547-56-2231(山村開発センター)

☆ 開室時間:午前9時～午後5時

☆ 休室日:月曜日・第3日曜日(21日)・祝日の翌日(12日)

☆ やまびこ号巡回コースは



かわねフォン、町のホームページでご確認いただけます。
なお、年間予定表は図書室で配布しています。



図書室トピックス

雑誌が増えました

新刊号以外は借りられます!

NEW!



山

『旅行読売』

「今知りたい、魅力あふれる旬の「旅情報」を届ける」



文

『リー』

「上質なおしゃれと丁寧な暮らしを提案する」



文

『いっね。』

「暮らしをひとつ、新しく。
ちいさなことでひとつ新しくするだけで、毎日がフレッシュでたのしくなる。」

継続



山

- ・『オレンジページ』
- ・『趣味の園芸』
- ・『今日の健康』
- ・『ハルメク』
- ・『ナンバー』

文

- ・『きょうの料理』
- ・『クロワッサン』
- ・『現代農業』
- ・『レタスクラブ』



今月の
特集

文化会館図書室

健康レシピ

身体の不調を食で整える

- 『腎臓病のおいしいレシピ』
- 『たんばく質最高のとり方大全』
- 『一日一杯 脳のおそうじスープ』
- 『オートミール健康レシピ』ほか





文化会館図書室所蔵

山村開発センター図書室所蔵

● 『奇跡集』 小野寺史宜 著 集英社

満員の朝の快速電車。腹痛のぼくがその場にしゃがもうとした瞬間、先に女性がしゃがみこみ…。偶然、同じ電車の同じ車両に乗り合わせた見知らぬ人々が起こす小さな奇跡を描いた連作短編小説。

小説

● 『子宝船きたきた捕物帖2』

宮部みゆき 著 PHP研究所
宝船の絵から、弁財天が消えた。江戸深川で起こる不可解な事件に2人の「きたさん」が立ち向かう、謎解き×怪異×人情の捕物帖シリーズ、第2弾。

小説

● 『任侠ショコラティエ』 新堂冬樹 著 双葉社

規格外のパワーと愛情をショコラに捧げる星咲直美は伝説の元極道。人々を笑顔にするために足を洗ったが、古巣「東神会」の若頭が卑劣な罠を仕掛けてきて…。

小説

● 『情事と事情』 小手鞠るい 著 幻冬舎

事情のない情事なんてない、すべての愛には、裏がある。夢のようなお遊びの果ての、夢のない現実とは？ 大人たちの、上品で下品な恋愛事情、その一部始終を描く。

小説

● 『今日は、これをしました』 群ようこ 著 集英社

編み物、動画鑑賞、新聞購読、マスク作り…。無理をしない。無駄をしない。いくつになっても、家の中でも、近所でも、喜びや楽しみは見つけられる。彩りに満ちた日常を綴ったエッセイ集。

エッセイ

● 『女人入眼』 永井紗耶子 著 中央公論新社

京の六条殿に仕える女房・周子は、源頼朝と北条政子の娘・大姫を入内させるという命を受けて鎌倉へ。繊細な心を持つ大姫と、目的のためには手段を選ばない政子。母子の間に横たわる悲しき過去とは。

小説

● 『<磯貝探偵事務所>からの御挨拶』

小路幸也 著 光文社

小樽の高級料亭旅館<銀の鯨>で起こった火事にまつわる騒動から1年。磯貝公太はその事件を機に警察を辞め、私立探偵となった。かつての同僚刑事が開設祝いに持ってきた依頼は、人捜しで…。

小説

● 『スパイコードW』 福田和代 著 KADOKAWA

中国が台湾侵攻に乗り出した。旧日本軍が残した伝説の“特務機関Ω”も行動を開始。正体を隠していた工作員たちが、世界各地でミッションに挑む。彼らは台湾を、世界を救えるのか。中国を止める切り札「W」とは。

小説



● 『ふしぎ駄菓子屋銭天堂 17』

廣嶋玲子 作 jyajya 絵 偕成社

「その駄菓子屋は、幸せと不幸のわかれ道。女主人・紅子が、きょうもお客さんの運命を駄菓子で翻弄する-。」



● 『へんしんどうぶつ』

三浦太郎 ほるぷ出版
かわいいひよこが、らいおんに変身！ ページをめくると、かわいい小さな動物たちが、大きな動物に変身します。おしゃれな穴あきしかけ幼児絵本。

『マンガでわかる! 認知症の人が見ている世界』

川畑智 著 遠藤英俊 監修 浅田アーサー 漫画 文響社

問題行動の根底にあるものとは…

認知症の人は、きっと何もかもわからなくなって、何を言っても何をしても無駄だと思いついて、この本を読んで少し考えが変わりました。

ペットボトルのフタをあけるためにハサミを借りたいと言ったり、ご主人に濡れた靴を乾かしてほしいと頼まれた奥さんが、食器乾燥機で靴を乾かしたりするのは、自分の力でなんとかやってみようとする姿であり、それが少しだけズレてしまっているだけだということ。

幻覚や見間違いは、タオルが犬に見えたり、ガラスに映った自分の姿が他の誰かに見えたり…。夜中に老人ホームの中を歩き回るのは、昔、看護婦長時代にやっていた夜の見回りを思い出したためだったり…。

それぞれに理由があり、でもそれが少しズレてしまっているだけだと知り、認知症の人に親しみを感じるようになりました。この本には各問題行動の対処法も書かれていて、介護の参考になりそうです。 図書室スタッフH



(山村開発センター所蔵)